

小学校 6年 国語科

表す × 書く 読む

育成したい
国語力

目的や意図に応じ、考えたことなどを筋道立てて文章に書く。
書こうとする内容や目的に合わせ、必要な図書を選択して読む。

単元名

本の世界で学ぼう

本時の目標

各種の図書情報を利用し、読書生活を
広げる。 (読む能力)

本時の流れ

導入

友達の課題を確かめる。
めあての確認

めあて：「とっておきの本の帯」を作っ
て紹介し合ったり、検索した
りしよう。

展開1

「とっておきの本の帯」を作る。
・「だれに」「何を」「どんなふうに」紹介す
るかなどを考える。
・題名や著者名を書く。
・キャッチコピーを作成する。
・話の内容を100字程度に要約する。
・作者の他の作品も紹介する。
・おすすめの登場人物を紹介する。等
グループで紹介し合う。読みたい本の名前や著
者名をメモする。

展開2

紹介してもらった本の中から読み
たい本を選び、検索をする。
・学校図書館の十進分類法を知
る。
・公立図書館のホームページにア
クセスし、書名、著者名、キー
ワードなどを使って検索する。

まとめ

「とっておきの本の
帯」を掲示し、読書
意欲を高める。

児童の作品の例

くどう なおこ 作 「のはらのうた」

読めばきっと、大切な季節を見付けることができます。

同じ作者の作品名

視点2
本の紹介は、学年を追って多様な取組があります。
高学年では、発達段階を踏まえ、展開2の検索につながるような内容を充実させます。相手意識をもって、教えてあげたい内容を考えることが大切です。
この活動を通して、自分自身の読書への振り返りができ、表し、伝えるための言葉の吟味もできます。

視点1
自分の読書記録から、気付いたことや、考えたことを書き、課題を整理し報告文にまとめておくことが大切です。

国語力育成の視点
読書指導の工夫と充実は、国語力を育成するために大きな役割を果たします。自分の読んだ本の感動をどう表し、伝えるか、楽しく工夫するために相手意識や目的意識を明確にすることで表す力を育成することができます。
本の帯を作ることは、自分の感動や思いを相手に応じて効果的に書くという力を高める一つの手段です。日頃から、発想の豊かさや語彙力を高めることによって、表す力は高まります。情報の伝達という観点から、商品のCM等の例を取り上げて比較させ、効果的な表現について考えさせます。